

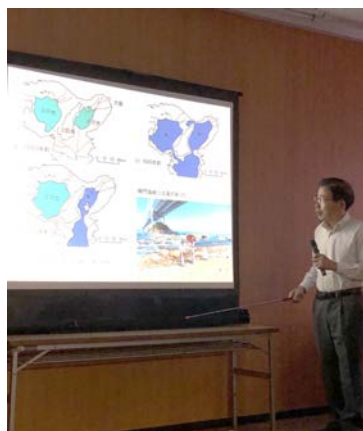
甲子園浜でなぜ頻繁に青潮が起きるのか

9月28日 藤原建紀先生による講演会

青潮とは



9月13日に撮影された甲子園浜。手前が白濁しています。この日から15日にかけて、浜辺にたくさんの小魚やカニなどが死んで打ち上がりました。これが青潮です。このような現象がなぜ起きるのか、防ぐことはできないのかと、青潮を研究なさっている京都大学名誉教授藤原建紀先生に講演をしていただきました。



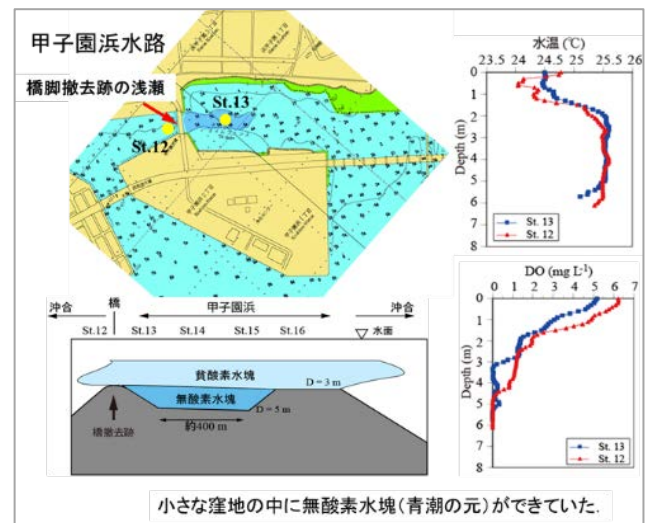
青潮のできかた

海面にある植物プランクトンが死んで海底に沈み、細菌による分解が行われることで、海底は貧酸素状態になる。その時岸から沖に向かって風が吹くと、海底

の硫化水素を含んだ水が海面に上がってきて、硫化水素は酸素に触れると白くなるため、海水が白く濁って見える。これが青潮の発生するメカニズムです。

甲子園浜のような浅い海（水深5m程度）では、貧酸素化しやすいため、水が淀まないよう流れを良くしてやる必要があります。

甲子園浜の水の流れを阻害している 二つの要因とその対策



- 1、甲子園浜橋西にある橋脚撤去跡に滞筋（みおすじ）を作る。（st12）
 - 2、甲子園浜橋東側の浅い窪みを埋め戻す。（St13）
- 甲子園浜における青潮発生の原因と対策が、豊富なデータから明快に具体的に提示され、目をひかれる思いでした。

生き物たちの命を守るために、地域住民が、甲子園浜の観測を続け記録し、関係各所に働きかけていく、そのことを教えていただきました。

藤原先生、ありがとうございました。

国指定浜甲子園鳥獣保護区干潟再生事業から一年



2019年11月20日午前6時30分撮影。推定潮位50cm。全体に砂状。造成時よりも地形はなだらかにおさまってきた。左（東）に砂だまり。大小の潮だまり。西へ滯筋（みおすじ）がある。今年8月に台風10号、10月に19号が接近したが、大きく地形が変化したり、投入した砂が礫堤から流出したりということもなかったようだ。サギ類が水際で採餌しているのがよく見られる。しかしシギ・チドリ類が多数飛来して採餌するという景色はまだ見られない。

環境省は、地形、水質、底質、底生動物の現地調査を実施し、底生動物ではアシナガゴカイが多く、小さく数も少ないがアサリやタカノケフサイソガニの生体もいるという。ニホンスナモグリの幼体と巣穴が多数確認されている。今後シギ・チドリ類が好む二枚貝類やカニ類が定着するよう実施可能な方法を模索していきたい。

活動報告

- 9月15日 海浜清掃 111名
可燃ゴミ 420kg、不燃ゴミ 10kg
- 9月23日 大阪湾生き物一斉調査結果発表会
大阪市立自然史博物館
- 9月28日「甲子園浜でなぜ頻繁に青潮が起きるのか」
講師：藤原建紀先生 40名
- 9月29日 スナガニ調査 ツノメガニ5匹
- 10月2日 阪神生物学会植生調査
- 10月26日 甲子園浜自然環境センター エコひろば
- 11月3日 伊藤ハム（株）合同クリーンアップ
93名+50名（伊藤ハム）、180kg、10kg
（ゴミ収集計量協力：ヤマサ環境エンジニアリング）
- 11月9日 ひょうご森まつり 甲山森林公園
- 11月13日 浜甲子園鳥獣保護区保全事業意見聴取会

活動予定

2月8日冬の鳥観察会

11月3日クリーンアップ



名神湾岸連絡線が阪神間都市計画に追加 それに伴い、浜甲子園線の海上区間を廃止

名神湾岸連絡線は、名神高速道路と阪神高速5号湾岸線をつなぐ延長約2キロ（都市計画延長）の自動車専用道路です。8月29日開催の西宮市都市計画審議会で提示されたルートは、高架道路が今津東線の上から大阪ガス今津総合グラウンド、JFE スチールを縦断して、橋梁で海を渡り、西宮浜で湾岸線に接続します。

浜甲子園線は、名神湾岸連絡線の整備により、内陸部と臨海部の連携が強化され、海上区間の必要性が低くなることから、一部区間の都市計画を廃止し、延長を変更します。

国指定浜甲子園鳥獣保護区のすぐそばを通り、海浜生物にも大きな影響を与える建築物を設置することになる道路の計画があることに対し、地元では長らく懸念と不安を抱いてきました。その計画が廃止の方向で進むことに安堵しています。

今後この浜甲子園線の計画変更は、兵庫県の都市計画手続きの中で名神湾岸連絡線と他のいくつかの計画道路と一括で検討され、国の環境影響評価の手續と並行して進められます。